

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社アバンセラライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームこころ		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	平成25年2月	評価結果市町村受理日	平成25年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成25年2月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

御家族がいつでも気軽に来ていただける、明るくて自由で家族的な雰囲気作りに努めている。良いチームプレーは良い介護に繋がると信じ、問題があればその度皆で話し合い、良い方向へと軌道修正を行っている。また、認知症介護の意識と技術の向上の為、毎月内部研修を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

何が利用者にとって良かを念頭に置き、家庭的雰囲気の中、自由で笑顔の絶えないホームを目指している。利用者の笑顔は、職員の満足度に反映されると考え、職員育成に力を入れている。法人研修の他に、経験豊富な職員から選定した教育担当者による毎月の勉強会開催や、各職員に目標設定と自己評価を課す等のケアの質の向上と、職員個人のメンタル面への配慮に努めている。利用者担当制を導入し、より現状に即した計画作成を行っている。利用者家族への日常報告の頻度が高く、クリスマス会等の行事で親交を深めている。開催後のアンケート調査で結果を職員間で共有し、より良いホーム実現のために活かしている。このホームの姿勢に対し、家族の満足度は高く、尺八演奏等、レクリエーションに貢献下さる家族もあり、信頼関係が構築されている。花見や初詣等の外出支援は、利用者に負担のないよう、遠出を避け、近場を利用している。老人会等の協力を得ながら、地域に根差した、利用者第一の人間味あふれるホームを目指し、職員一同取り組んでいる。独自のアンケートをとり、反映を図るなど、すぐに取り入れることのできることは直ちに取り入れる姿勢があり常に進化している事業所と言える。今後とも、ケアの中身の充実が期待できる施設と言える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念、行動指針は玄関、事務所に掲示され、一日一回唱和し、常に意識し実践できる様心がけている。	「安心感のある、笑顔の絶えない自由な暮らし」のホーム理念を実践する為、利用者の状態観察と把握の徹底と共に、家庭的な雰囲気ですばるよう職員に伝えている。起床就寝時間をしぼることなく、気兼ねなく自由で安全な、利用者本位の生活の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けた時は近所の方と挨拶をするよう努めている。また、地域の喫茶店に出掛け顔なじみになっている。近隣のボランティアさんにも行事などに来てもらっている。町内会の一員として地区の防災訓練に参加している。	秋祭りやクリスマス会をホームで開催し、地域住民や利用者家族を招待している。職員総出のバイキング形式の食事提供や催しで親交を深め、ホーム紹介の機会としている。また、おどりと唄の披露に、地域の方々からの来訪が年二回ある。知己の防災訓練参加や、散歩時、買い物、喫茶店利用など交流を深めている。	地域の団体や、小中学校、幼稚園など交流を広げてゆくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解を深めていただくために、施設の行事に参加していただき、利用者様とのふれあいの機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで参加の呼び掛けをしてなかった老人会様に来ていただく事になり、忌憚のないご意見を伺い、サービス向上に活かしている。参加者より疑問・質問があった時は丁寧に答ええています。	運営推進会議に用いられる、研修内容や訓練の様子等の資料が、ホームの内情や現状報告に役立てられている。地域の老人会からの参加もあり、非常時の防災協力の声をいただいたり、地域包括支援センター等の参加により、福祉情報入手の場として活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度でわからないことや生活保護関係等について不明な点は直接出向いたり、電話で担当者から指導を受けています。市の主催する高齢者の食事のあり方、感染予防、虐待の研修に職員が参加している。	地域包括支援センター開催の地域住民向け勉強会を利用者家族等にお知らせしたり、職員向け研修会へ参加をしている。日常的に市福祉担当者との相談、連絡などしている。推進会議出席の地域包括支援センター担当より施設での事例説明や業務への助言など具体的な話しや「コムネクス」で研修参加など様々な話し合いがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしない事を認識しており、必要に応じ職員で話し合っている。日中は鍵をかけないケアを行い、夜間は防犯上施錠を行う。	「自己チェック表」で職員各自が自己評価し、法人のケアスクールや市の研修に参加し、理解を深めている。玄関への感知ブザー設置や、玄関前のプランター配置の工夫で、道路までのアプローチを困難にしたり、状態把握と見守りで、外出を未然に察知する等、外出願望の強い利用者の安全確保に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市が主催する研修会に職員が参加して、事業所内にて内部研修を行っている。高齢者虐待の背景や虐待に至るまでの介護者の心理を勉強することで、日々の介護に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はきづなの会の研修に参加して後見人制度について勉強している。また、利用者様後見人司法書士の方から分かりやすく説明を受けることで理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとって頂き、ご家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置してあるが、面会の際スタッフに直接意見を言ってもらっている方も数名おみえになり、その度対応している。	家族のように利用者に接することや、利用者家族への月次報告や医療受診前後の報告、更に介護計画作成時の意見聴取、相談等、身近で話しやすい関係の構築に努めている。このようなホームの姿勢に家族も満足を得ていると、家族アンケートの解答から結果が出ており、要望は直接管理者へ届き、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回決起大会に代表の講話があり、各事業所の運営状況等を聞く機会がある。各事業所に意見箱が設置してあり、直接代表者に伝えることができる。	職員からの意見や要望を運営に反映させる時は、全職員にアンケートをとり、確認してから実行している。食事の提供法について出た意見を取り入れ、業務が改善された例がある。職員の満足が、質の良いサービス提供へつながると考え、利用者が笑顔でいられるよう、職員の間関係が良好であるよう配慮している。職員の個人目標、自己評価の書類をつくり、資質向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マネージャーと管理者がヒヤリングの時間を設けることで、直接要望等を伝え、働きやすい職場環境整備に努めています。今年度より個人評価表が導入され自己採点もやっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を立てている。外部研修や内部研修会を開催することで全職員レベルアップにつなげていけるように取り組んでいる。11月から教育担当者を作り、月一回勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設での職員の研修を行い、職場の良いところを参考に、日々の介護に活かしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者の自宅または施設に伺い、本人の意見をゆっくり傾聴し安心して利用していただける場所であることを理解してもらえるよう努めている。また、見学を兼ねおやつの時間帯を利用することでホームに馴染んで頂き入所へと結びつけている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様から、在宅での生活困難状況や介護に対する不安等に耳を傾けることで、信頼関係を築くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何に困っているのか、どのようなサービスを必要としているのかをお尋ねし、介護保険制度の制度の説明をすることで理解していただくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本何事も声かけなどして一緒に行うようにして、無理のあるところはスタッフが補うように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	親睦を深める為に食事会やクリスマス会にはご家族様に案内を出すことで、参加を促している。面会時は近況報告をし、毎月、電話で月次報告も行っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に掛けて、買い物や外食を楽しんでいる方もいる。また、入所前の馴染みの方が時々来所され交流してみえる。	家族や馴染みのある方の来所の際には、職員全員の挨拶を徹底し、茶菓をふるまい、気軽に立ち寄りやすい雰囲気作りに努めている。電話支援を行い、利用者の不安な気持ちに寄り添っている。行き慣れた店への買い物等の支援も行っている。来訪の家族や知人などが、職員の名前など分かりなじみやすくするため、名札の着用をするなど工夫がある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けし、利用者同志がレクリエーション、お手伝い等楽しく行えるよう気配りしている。また、トラブルが発生した際は席替えし対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転所された方の今までの生活状況を伝えたり、時には面会に出かけたりして今までの関係が途切れないように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おひとりでするいでおられる時に声をかけをして、話しやすい状況をつくり希望を聞いたり、日々のつぶやきの中から、希望や意向を把握する努力を怠らないように努めている。	利用者の、日常の何気ない「娘に会いたい」「帰りたい」「食べたい」等、聞き取った言葉をミーティングや連絡帳で共有し、誕生会等の行事を利用して実現している。車椅子利用者へは、クッションを使用したり適度な休息を促す等して、身体への負担も含め、利用者の心情の配慮に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から毎日の生活歴や生活環境を聞き情報を共有することで、ご本人に合った暮らしができるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様ひとりずつの感情、気持ちを大切に、もっておられる知識などお聞きしながら日々の生活に取り入れている。また、状態に合わせて日中居室で休んでいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ご家族が来所された時にご家族にご希望を伺ったり、担当職員から入居者様の様子や気づき等意見を出してもらい介護計画に反映させている。	見直しに当たり、必ず入居者家族に、面会や電話にて相談を行っている。家族へのアンケート結果で、計画作成の説明について満足を得ているという解答を多数得ている。利用者担当制が、利用者の詳細な情報収集に役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の気づきや身体状態は業務日報やケース記録に残すことで、全職員情報を共有している。毎日のミーティングでは意見を出し合うことで介護計画を見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外は、原則はご家族対応になっているが、現状は、ほとんど施設対応で行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室にきてもらったり、喫茶店や飲食店へ外食に出かけたりしている。また、地域の防災訓練に参加することで地域と関わりを増やすことを大切にしている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日1回かかりつけ医による往診や今までのかかりつけ医にご家族と受診継続をされている入居者の方もいる。	毎月第3火曜日にかかりつけ医からの往診を受けている。利用者の状況によって往診頻度に変更の対応がある。その他、歯科、眼科、精神科、皮膚科等の受診には、職員が通院同行している。薬は事務所で、個別管理している。受診前後に家族へ、連絡、報告をしている。希望者には、マッサージ、口腔ケアの訪問がある。緊急時持ち出し靴を用意し、情報提供できるよう準備がある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないため、協力医と連携をとることで健康管理に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係に対して、ご本人様に関する情報の提供を行い、安心して治療に専念できるように努めている。また、退院期日の問い合わせやその後の支援を持つことで安心につながる様に配慮している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から延命治療の同意書をいただいております。医療機関から要請された時は提供できるようにしている。終末ケアに関しては、医療行為が必要になった時には医療に委ねるよう対応している。	同意書を改訂し、全利用者家族から同意を得ている。以前の同意書よりも項目が細分化され、様々な場面での対応について、意向を聞き、把握する様式になっている。救急搬送時に必要な物品を「緊急持ち出しかばん」にまとめ常備し、職員一人一人への実践訓練で緊急時に備えている。また、実際に役立てた事例がある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署と協力しての訓練を行っている。また、昨年より緊急時に備えて毎月勉強会を開き意識向上に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて飲料水、食品などが備蓄している。年2回の避難訓練も実行している。	防災訓練は年2回行われている。地域の方にも呼びかけ、参加を募っている。訓練の様子を、写真付き資料の作成で紹介しており、簡潔で一目瞭然に伝える工夫がある。防火を目的に、ホーム内を禁煙としている。老人会所属の近所の方が、非常時には出動下さるとの意向があり、協力が見込める関係がある。  地域住民、団体などとの協力体制の充実が期待される。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者様の前では言葉かけに注意して排泄、入浴の時などは思いやりをもって接するように努めている。書類やメモ等は必ずシュレターにかけ破棄している。	排泄や入浴介助時に、利用者一人一人の羞恥心へ配慮した対応を心がけている。食事介助時にも、利用者を尊重した言葉かけがされている。これら接遇等を自己チェック表の活用で、職員に意識付けしている。各居室にのれんを掛け、室内のプライバシーが確保されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで、ご本人様の何気ないつぶやきを大切に希望に沿うように努め、言葉で自分の意思が伝えられない入居者様に対しては、表情や顔色から思いを汲み取るように心がけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的に決まっているが、利用者様のその時の心身状態に合わせて対応している。就寝時間についても、その方のリズムを大切に、強制しない様に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容を利用しています。また、職員と一緒に出かけ好みの衣料を購入したり、着替えはご本人様の希望により更衣介助を行っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に応じて下ごしらえや、調理を一緒に行う中で、好きな食べ物を聞き献立に活かし、一人ひとりの有する能力に応じて、食べやすい様に食材、形態などを工夫している。	食前には、嚥下体操を取り入れ、おしほりを提供している。利用者の希望には、外食や誕生会を利用したり、材料のアレンジで対応している。オヤツは、利用者の体調、嚥下機能に合わせて、代用品を用いて提供している。業務の都度に行う消毒が徹底しており、月に一度の勉強会の反映が伺える。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握し、ミキサー食の必要な利用者には料理の説明をして食事量、水分量を記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアを積極的にできない方は声かけし、口腔ケアをやって頂き、職員ができていない部分を実施している。希望の方は、歯科衛生士による月4回の口腔衛生を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで、排泄パターンを把握しており、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックをし、時間ごとに声をかけ誘導している。日中トイレでの排泄を心がけており、二人態勢の介助で、自立を目指しているケースもある。牛乳等、便秘対策に効果の見られるものは、取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維を多く含む食材を利用することで、便秘予防に工夫をしている。10時のおやつにはヨーグルトを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否される利用者様には、再度時間をみはからい声掛けをすることで入浴を促している。入浴剤で温泉気分を堪能して頂き楽しんでもらっています。	入浴中の事故防止に注意し、その場を離れないことを徹底している。浴室と脱衣場の室温が均等になるよう配慮し、適温になってから入浴している。感染予防に、足拭きマットを利用者ごとに毎回交換し、使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間に決まりはなく、個々の生活習慣を大切にしている。冬季には湯たんぽを利用することで足元が暖かく安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書にて一人ひとりの内服薬の種類・効能等を把握し、服薬チェック表を使用し、飲み忘れや誤飲のないよう確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の出来る事を個々にして頂いている。歌を唄ったりパズルをされたり、洗濯干しやたたみ物等お手伝いもして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時はできるだけ外出するようにしており、近所へ散歩に行っている。また、月1回行事で外食や喫茶店等に出かけている。さらに、ご家族の協力で普段行くことができないところに出掛けられる方もいる。	気候の良い日の午前中に、近所の散歩をしている。個別や、少人数で何回かに分けて出たり、その日の職員により対応している。車で、近所の桜通りで花見、神社で初詣、大型施設へ出かけている。個人の負担軽減を優先に、大人数での長距離外出は控えている。月1回以上の喫茶外出の検討がある。	外出に対する要望を把握し、実現に向けての検討、実施される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預けている方、ご自分で所持されている方も見え、買い物に行った際に使えるよう支援している。他の利用者様は家族の意向で金銭管理を施設が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり利用者様からの電話や手紙の訴えはないが、いつでも本人の希望があれば支援していく。利用者様の希望で家族に繋がる専用の携帯を持ってみえる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のその時の気持ちの表れ方によりテーブル配置、利用者様の椅子の配置など工夫に努めている。	各フロア入口のドアチャイムで、音による開閉の確認が出来る。トイレの場所を「便所」と貼り紙し、入居者に認識しやすい工夫がある。屋外で、野菜をプランター栽培し収穫している。夏場にはゴーヤを育て、緑のカーテンで季節を楽しんでいる。日常をホームページで写真紹介し、ホームの周知に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行事等の飾り付けや季節の草花、外出時や行事の写真の展示等、生活感や季節感を感じて頂いて穏やかに暮らしていけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様が自宅で使い慣れた家具が持ち込まれ、居心地の良い空間がつけられている。	居室の物は全て利用者の持ち込みで、その人らしい部屋が実現されている。体調不良で横になっていることの多い利用者の視野に気付き、単調な壁に絵や色など、目で見て楽しむことが出来る装飾をしている。その人に何が出来るかを常に考え、ケアに反映させようとする姿勢が伺える。天気の良い時は、毎日布団干しがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには目の高さに大きく名前を掲げ、トイレや浴室には「使用中」の札を下げることで混乱しないように努力している。また、夜間ふらつきのある方はセンサーを使用し転倒予防している。		

## 目標達成計画

作成日：平成 25 年 4 月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	行事や散歩など外出の機会はあるが、出掛ける回数が少ない。	ホームから外へ出て気分転換ができるよう、外出の機会を増やす。	天気の良い日は、1階ベランダでの外気浴(数分でも)また、車の乗り降りが大変な方にも、車に乗ったまま外の景色を見て季節を感じてもらう。(ドライブ)面会時には、ご家族様も一緒に散歩に行っていただけよう協力をお願いします。	12ヶ月
2	35	年2回の防災訓練では、今後起こり得る天災時に対処できない。訓練回数が少なく、災害発生時に対するマニュアルも出ていない。	地域と連携し防災訓練回数を増やし、災害時に適切な対策が取れるような体制にする。	防火管理者を中心に、災害時の対策について話し合いマニュアルを作成し、防災訓練の回数を増やし、職員間の理解を深める。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。